

長白山の自然, 七日間の旅

大賀 二郎*

Jiro OGA : Travel of seven days of nature in Changdai range

はじめに

長白山は極東の要衝であり、数々の歴史を秘める山脈である。中華人民共和国と朝鮮人民共和国（北朝鮮）の国境上に広がる巨大な山脈である。最高峰は2,749mである。東経127~128°，北緯41~42°に位置する。気象は厳しく、冬季はマイナス40℃を下る日が多い。日本からの地理上の位置は近く、日本海の港湾都市舞鶴から直線距離で610kmである。しかし国際緊張地帯にあり、最近の政治・経済や自然環境はよくわかっていない。長白山は謎の山である。どんな森林があり、どんな生物が存在するか、登山路はどうなっているか。興味があるところである。ここ2, 3年のうちに中国側から入域が可能となり、詳細な地図が公開され、登山路も整備され始めた。体力と登山技術は左程問題ではない。注意すべき点は国境が複雑に入り

組んでいることである。中国吉林省当局の案内図書も発行されている。日本国内の旅行社でも企画しているところもあるが、今のところ殆どが催行に至っていない。

私たち一行は2009年7月21日から7日間の日程で、中国長春空港から長白山空港に、そして中国人ガイドの案内で長白山に向かった。

23日、西部登山路から長白山(2,470m)中国側頂上に登頂した。天池の湖面を垣間見る。風雨強く、頂上で30分滞在して急いで下山した(図1, 2)。

長白山の自然と現状

長白山は火山である。現在は活動を休止している。頂上には火口湖がある。周囲を十数峰の断崖絶壁が

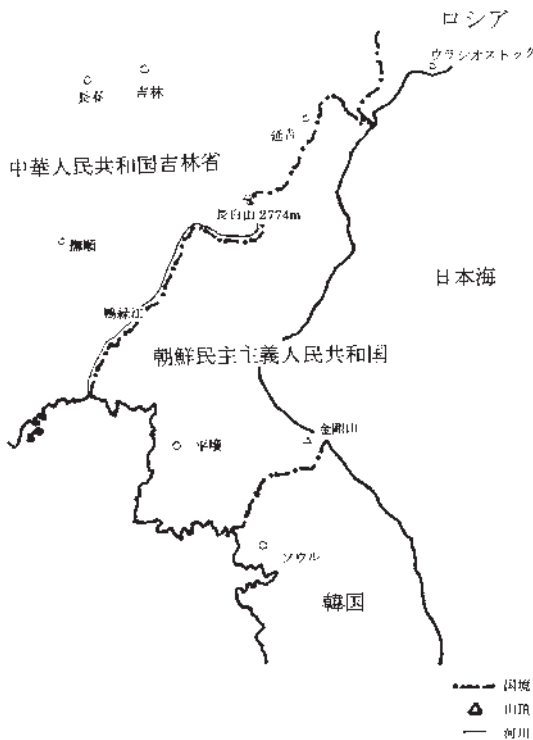


図1 中国極東部

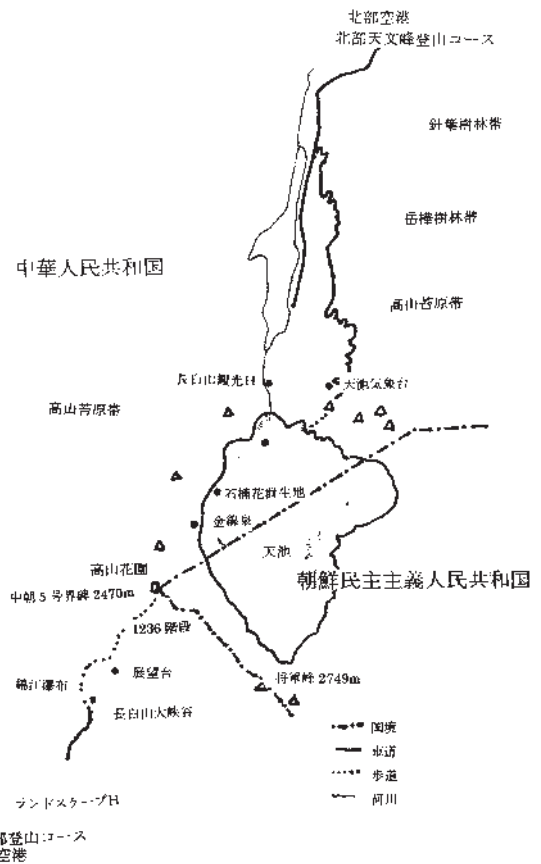


図2 長白山頂上天池周辺

* 森羅万象の館 博物館学芸員

囲んでいて、その最高峰は2,749m（北朝鮮側）である。

聳え立つ岩峰群の直下には、この世のものと思えない壮絶な天池が鎮まっている。前述の火口湖である。最深部水深384m。紺碧である。世界で最も神秘的な湖とされている。

長白山の頂上には中国と北朝鮮の国境が走っている。湖面にも見えないが国境がある。陸地の要衝には21個の中朝界碑がある。両国の名を刻んだ石柱が寂しげにぽつんと立っている。中国名は長白山、北朝鮮名は白頭山。岩峰も二国の領有に分かれていて、それぞれの国の名称が付いている。北朝鮮には將軍峰と呼ぶ峰もある。北朝鮮では聖域とされている。が、南方では核やミサイルの実験が行われている。

頂上火口周囲の平均海拔は2,200m。北部高地でのこれ程の高さには一木一草生えない。常に風雨が荒れ狂っている。冬季の温度はマイナス40℃。裸岩の荒涼とした世界である。

この湖を見ることは極めて難しい。夏場は吹き飛ばされるような風雨、稀に晴天の幸運に恵まれてもガスが湖面一面に立ち込めている場合が多い。瞬時の晴れ間を期待するしかない。9月に東の間の秋が来て、翌年6月まで、全域氷結し、無人の世界となる。

長白山は現在もわからないことが多い寡黙な山である。しかし世界有数の活火山である。歴史に残る大噴火を繰り返し、その都度広域被害をもたらした。天池は15,000年前の大噴火の時にできた湖とみられている。10世紀初頭の大噴火には北海道、青森地方にも火山灰が及んだことが知られている。今も山腹の各所に温泉が湧き出して、湯治施設もある。西斜面で見える限り、溶岩流、爆裂火口、ガス噴出孔はない。しかし、火山弾は今も各所に生々しく散在し、活動期の凄さを物語っている。近年、西側山腹に長大な地殻の割れ目が発見された。長白山大峡谷である。まだ活動期にあることは間違いない（写真1～4）。

登山と観光

長白山登山・観光は、かつては北朝鮮国が唯一の観光資源として開発した（同国では白頭山観光として）。殆どは韓国からの観光客であった。しかし同国の核実験やミサイル打ち上げなど緊張が続くなかで、このルートは閉鎖状態にある。

この代わりということではないが、最近中国が長白山の観光に非常な力を入れ始めた。辺境の地では、異例の空港の建設。在来の北部空港に加えて更に西部空港ができた。登山ルートも在来の北部天文峰ルートに加え、西部錦屏峰ルートが昨年から開設されている。どちらも山麓に異色の施設がある。プールや温泉設備のある国際級ホテルもできている。エコツーリズム

の視点から自然博物館、生態植物園、東北虎林園、スキー場、森林公園、キャンプサイトなどの施設も取り入れて急速に国際リゾートとして発展しつつある。長白山を訪れる本来の目的は登頂である。登山道も整備されて、ある程度の体力があれば可能である。しかしこの山は常に風雨で荒れている。海拔2,000mは冷える。動けなくなれば、籠が救援に来てくれる。今のところ観光客は中国人が殆どである。ここでの日本人の姿は稀である。外国人への制約は一切ない。どんな地域の立ち入りも撮影も自由である。日本人の観光が殆どないのは、国境を接する北朝鮮の拉致問題が影響しているように思える。実際に北朝鮮側に知らずに越境する危険は確かにある。どのような理由があっても拘束される。現地での救済措置は中国側がない。国境越しに北朝鮮の兵士を撮影することは、現国ではスパイ容疑になる。高山植物の群落は北朝鮮側に多いが、うっかり入れれば大変な事態になる。国境に接した西側登山道の殆どは、中国側に設定された1,236段の急な石段である。これを辿るかぎり越境の危険はない。

その他、長白山での傘の使用は危険であり、自分のためでもあるが、法律の禁止事項である。長白山は世界でも類をみない雷の発生地帯である。ここでの登山は雷の巣に入るようなものである。以上、長白山登山は通常の山に関する注意以外に強烈な風雨と国境という配慮が必要である。

動植物の分布

長白山の動物分布は、長い空白期間があったので、まだ分らないことが多い。森林帯の大型哺乳類では虎の生息が確認されているが、現在も生存しているかどうかはわからない。熊、狼の記録はない。天池では、遊泳する大型の未確認生物が目撃されているが、岩魚かサケ科魚類の可能性が考えられている。山麓の湿原には、小型サンショウウオが普通に生息している（現地ガイド説明）。蝶では、極北のアカボシウスバが確認されている。オオイチモンジ、クジャクチョウ、クロコムラサキ、ミヤマカラスアゲハ、ジャコウアゲハ、アゲハチョウ、シロモンコムラサキ、キベリタテハなど（長白山博物館掲示写真から確認）。日本にいるものと大して変わらない。

植物分布は、ここでは海拔1,800m以下が美人松などの針葉樹林帯、同じく2,000m以下が岳樺などの広葉樹林帯、2,200m以下が礫湿原の高山植物帯である。

針葉樹林帯では、特産として長白松がある。美人松とも呼ばれ、独特な樹形で育っている。アカマツやトウヒが普通である（博物館資料）。

広葉樹林帯では、岳樺、白樺などが主である。空中湿度が高いのか、下草として羊歯類の生長が旺盛であ

る。ノキシノブ、マメツタ、ランなどの着生植物は地衣類を除いて見当たらない。長白山朝鮮人参はこの特産である(写真5)。20年の個体も見つかっている。林中の腐生植物オニノヤガラ、冬虫夏草などは漢方として近くで売られている。

高山植物帯では、半球状の群落を形成しているのが多い。このあたり火山弾が散乱しており、地衣類が付着している。全般的に見て種類は少ない。日本の東北地方の山岳地帯にあるような種類が多い。

以下に述べる分布は中国領西部錦屏峰ルートで観察した記録である。日本に分布するものと同種が多い。長白山空港付近の海拔1,000m前後の原野にはヤナギラン *Epilobium angustifolium* L. (写真6)、ユウスゲ *Hemerocallis thunbergii* Ball.の群落など。1,500m前後の長白山大峡谷には針葉樹と広葉樹が旺盛(写真7)、樹陰には羊歯の群落がある(写真8)。1,800m前後のリゾートホテルなどの開発地域では、ツキミソウ *Oenothera tetrapectera* Car., クルマユリ *Lilium maximowiczii* Legel. (写真9)、アズマギク *Aster* sp. オダマキ *Aquilegia flabellata* Sieb., カラスノエンドウ *Vicia sativa* などの外来種もある。2,000m前後の長白山自然保護区内では、樹木はなく、草原と湿原になる。長白火山の活動時の火山弾が散在している(写真10)。チシアママナ *Lloydia serotina* Reichb., キンバイソウの仲間 *Trollius asiaticus* L., キンボウゲ *Lanunculus* sp. などが多く、花時の終わったアツモリソウ *Cypripedium thunbergii* Blume, バイケイソウ *Veratrum album* L. も見られる(写真11)。このあたりから頂上まで急な階段になり、岩場が多くなる。現地名の高山花園(写真12)となり、海拔は2,200m前後である。カラマツソウ *Thalictrum aquilegifolium* L., チョウノスケソウ *Dryas octopetala* L., トウヤクリンドウ *Gentiana algida* Ball. などが見られる。頂上は火口であり、断崖絶壁で湖面に切り立っている。岩盤で風が強いのでここは地衣類以外、殆どの草本の姿はない(写真13)。当日は風雨が強く、天池の全貌を見ることができなかった。瞬間の霧の切れ間で直下のテラスに石楠花科が望見できた。文献によると、キバナシャクナゲということであった。風が通らず、陽だまりになっているから生存できるのだろう。なお、長白山の植物は、日本の東北地方の高山帯に似ているように思える。ユーラシア北方域の植物は共通のものがあるのではないか。しかし、コマクサ、チングルマなど日本の代表的な高山植物はここには見当たらなかった。

頂上には厳然と中朝界碑の石柱が立っている。滞在中は天候も悪く、国境周辺での植物観察は厳しい。記録も十分なものではない(写真14)。

おわりに(極東の開発)

長白山は、満州・朝鮮として日本が支配していた時代がある。このときの資料は見当たらなかった。近年、中国が組織的に調査を始めている。歴史、考古、地理、環境、生物など各分野に渡っている。長白山山麓に天文台、博物館などの施設も整備されつつある。

広い視野からも中国は長白山を始めとしてこのありの極東の実行支配を静かに進めているように思える。北朝鮮とは長い国境線がある。ロシアとは至近距離にウラジオストクの軍港がある。日本とは日本海を挟んで要衝敦賀などとは直線距離では意外と近い。長白山は中国北東部やロシアシベリアを見渡す唯一の高所にある。頂上にある天池は近年の平均年間降水量1,340mm。8月は300mmを越える月もある(天池気象庁)。この驚異的な水量は極東の三大大河、即ち、第二松花江、鴨緑江そして牡丹江の源流となる。広大な地域の水資源を支配する絶好の立地にある。

おりしも地球温暖化が進んでいる。それがもたらす危機が論じられている。しかし反面プラス面もあるだろう。寒帯、亜寒帯の世界は永久凍土から解放されて、開発の如何によっては農耕や牧畜が可能になるだろう。鉱物資源も眠っているかも知れない。中国極東部には広大な地域がある。中国、ロシアそして北朝鮮の国境がある。

近くの延吉は空港、都市開発が急ピッチに進んでいる。未開の広大な極北地域は、近未来、開発競争になるか、また、国境を越えて極東国際経済圏構想が浮上するか、どちらにも動く環境にある。



写真1 天池風景 南部頂上付近 資料現地観光案内所



写真5 長白山物産（朝鮮人参）



写真2 天池湖岸石楠花群生 資料現地観光案内所



写真6 空港付近原野のヤナギラン

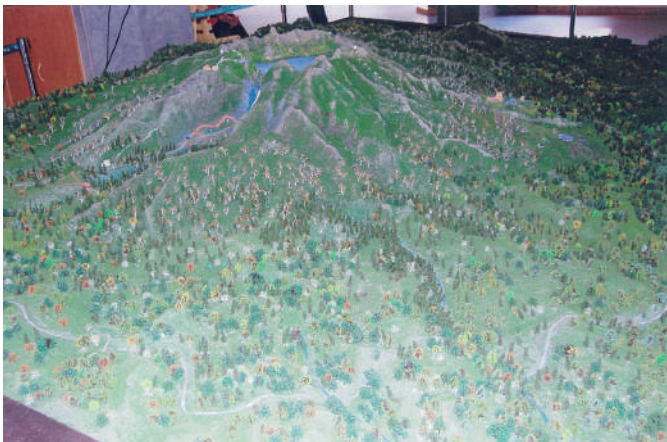


写真3 長白山立体模型東部から 資料現地観光案内所



写真4 長白山天池立体模型 資料現地観光案内所

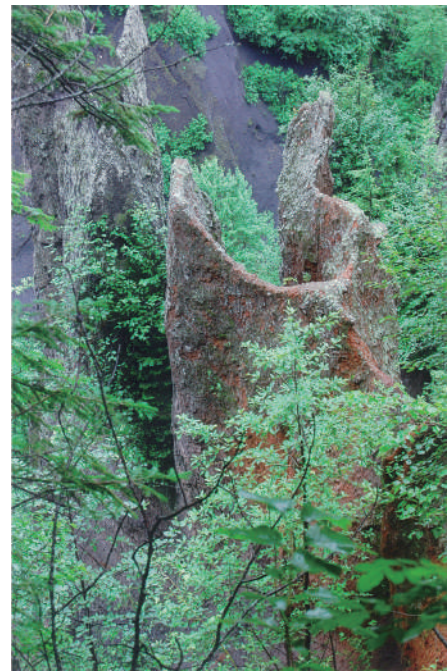


写真7 長白山大峽谷と樹林帯（針葉樹・広葉樹）



写真8 林中は羊歯の大群落



写真10 山頂付近に散乱する火山弾



写真11 お花畑のバイケイソウ



写真9 リゾート付近に普通のクルマユリ



写真13 山頂は地衣類の世界



写真12 高山花園（お花畑）



写真14 山頂の中朝界碑（国境）付近